

チェックリストによる河川事業の再評価項目（その1）

河川名	勝浦川	事業名	広域河川改修事業	事業区間	徳島市論田町新開～多家良町野上	
再評価の実施理由		再評価実施後5年が経過しており、事業の必要性・効率性を再度評価する必要がある。				
未着工或いは事業が長期間要している理由			事業には着手しているが、一連区間を改修する事業計画規模であり、長期の事業期間を必要とするため。			
事業内容	事業目的	河積の拡大、築堤護岸の補強等により浸水被害の軽減を図る。				
	事業実施内容	全体計画延長L=8,200m 築堤1,007,053m ³ 、掘削153,805m ³ 、護岸17,173m、水路3191m、樋門樋管5基、道路橋4橋、堰2基等				
	目標流量	3000m ³ /s	治水安全度（当該事業目標）		1/50	
事業の進捗状況	事業採択年	S11	工事着手年	S12	完成目標年	H31
	全体事業費（内用地費）	69.4億円 13.4億円	投資事業費（内用地費）	49.1億円（進捗率71%） 13.2億円（進捗率98%）		
	事業進捗状況	全体改修延長8,200mのうち、約8,200mが完了している。田浦堰の撤去・新設が残る。				
	一連の整備効果の発現状況	改修済区間では浸水被害が軽減され、宅地化が進んでいる。				
事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	田浦堰は固定堰であり狭窄部となっている。堰撤去により河積を拡大し浸水被害の軽減を図る必要がある。				
	事業目的に関する諸状況	災害発生時の影響（想定氾濫区域内）	（事業着手時点）※流域内資産は現状で評価			
		①浸水戸数：4,475戸 ②浸水面積：871ha ③重要な公共施設等：道路（国道55号、県道徳島上那賀線他3路線）、大原町交番他3施設 大松小学校他3校 ④災害弱者関連施設等：大松幼稚園他16施設、城南病院他13病院 ⑤その他：丈六寺本堂（国重要文化財）他8点				
		過去の災害実績	（S38～H22の水害統計、H16浸水痕跡マップ）			
		①被災頻度：S46, S47, S49, S50, S51, S54, S62, H1, H2, H3, H5, H7, H9, H10, H11, H13, H16 ②最大浸水戸数：床上31戸、床下1285戸（昭和49年台風8号および豪雨） ③最大浸水面積：71.3ha（昭和49年台風8号および豪雨）				
		災害発生の危険度	①改修目標流量に対する現況流下能力の割合：ブロック①82%（田浦堰） ②現況の治水安全度：ブロック①1/10程度 ※ブロック②～④は改修済み			

チェックリストによる河川事業の再評価項目（その2）

河川名	勝浦川	事業名	広域河川改修事業	事業区間	徳島市論田町新開～多家良町野上
続き	地域の状況	<p>①地域開発の状況 流域内には徳島市の市街地化区域があり、今後も開発が進むと予想される。</p> <p>②地域の協力体制 概ね完了している。関係機関と連携し残区間の用地協力を求めている。</p> <p>③関連事業との整合性の変化 特になし。</p> <p>④地域の事業に対する社会的評価 現在、事業区間の築堤・護岸はほぼ概成しており一定の治水効果を上げている。近年当河川に起因する大きな浸水被害は発生していない。</p>			
費用対効果	分析	<p>費用： 総費用の算定は、以下に示すとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総事業費 全体事業費のうち執行済事業費は治水デフレーターで、残事業は将来の割引率(4%)を考慮して現在価値化したうえ積算した。 建設費 = 98,171 百万円 ・維持管理費 1年間当たりの維持管理費について、施設完成までと施設完成後(50年間)を対象に将来の割引率(4%)を考慮して現在価値化したうえ積算した。 維持管理費 = 903 百万円 ・総費用 総事業費+維持管理費で算出した。 総費用 = 98,171 + 903 = 99,074 百万円 			
		<p>効果： 総便益の算定は、以下に示すとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・純便益 事業中の便益として、年平均被害軽減期待額(30,860百万円)を、築堤完了から事業完成までの13年間(平成19年～平成31年)にわたり現在価値化して積算した。さらに事業後の便益として、年平均被害軽減期待額(31,058百万円)を、事業完成後50年間(平成32年～平成81年)にわたり現在価値化して積算した。 純便益 = 932,864 百万円 ・残存価値 評価対象期間終了時点における構造物と用地の残存価値を現在価値化して積算した。 残存価値 = 9 百万円 ・総便益 純便益+残存価値で算出した。 総便益 = 932,864 + 9 = 932,873 百万円 			
		<p>費用対効果分析の結果 費用便益比 $B/C = 932,873/99,074 = 9.42$ (全体事業)</p> <p style="text-align: right;">費用便益比 $B/C = 3,370/2,428 = 1.39$ (残事業)</p> <p><感度分析結果></p> <p>残事業費：$B/C = 9.40$ (+10%の場合)、$B/C = 9.43$ (-10%の場合)</p> <p>残工期：$B/C = 9.45$ (+10%の場合)、$B/C = 9.38$ (-10%の場合)</p> <p>資産：$B/C = 10.33$ (+10%の場合)、$B/C = 8.51$ (-10%の場合)</p>			